
放射能除染日記

天海史郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放射能除染日記

【Nコード】

N9845X

【作者名】

天海史郎

【あらすじ】

ガンマ線の空間線量0.3μシーベルトくらい。ベータ線を含めれば、数値はバンと跳ね上がる。しかしひどい汚染地域に比べたら、屁みたいなものなのですかね。「直ちに健康被害が出ない」なら、じわじわとやられるって訳ですか……。低線量の長期間被ばくプラズ内部被ばく。「笑って過ごせば、放射能に勝てる」なんて福島県委託の学者さんまで出てくるし……。笑いながら、じわじわ死にましよう……。アホか！ただ何となく書き出したので、ただ何となく読んでくだされば……。

1 シャカン君

『放射能除染日記』……くそおもしろくもない題名、我ながら呆れてしまう。あれこれ考えたが、どうにも座りがよろしくない。もう少しいい題名を、もう少し何とかならんか……なんて無い知恵を絞っているうちに

「いや、まあ……このたびは……惜しい方を亡くされて……ただ……ですねえ……放射線との因果関係と申されました……そこまでの因果関係は……タバコもお吸いになられていたそうですし……お年も、お手ごろで、はい」、なんてことになってしまっしかたがない、えいっ……ペンネームだけは、きばって付けて、ばん……天海史郎。ちよいと詳しい人ならすぐに気が付くので、最初に白状すると、新選組の隊士名簿から拝借しましたです、はい。孫子の方がおられましたら、広い心でお願い申し上げます。

4時間ほど前に、代表のヨシダ君（兄）から、電話があった。

「いやあ～Mさん。申し訳ありません。機械が……ああで……こうで……アメリカの……それで……ああして……部品が……こうして……今度中古ですがあ、別のを買いました……と言うことで……いつもすみませ～ん」

いつもすみませ～ん、それはそうだな。

今やヨシダ君（弟）とシャカン君は戦友なのだ。

きのう放射能除染会社アース社（本当は英語名だが、面倒なんでカタカナにした）のヨシダ君（弟）と社員のシャカン君が来たのだ。シャカン君、本業は左官屋さん。本当かどうか知らないが、ごく狭い範囲の噂では「1級」とからしく、弟子入り希望者が殺到していると聞いた。若いが、確かに腕はいい……素人の私には、上手そうに見えるんだけど。

このシャカン君、「シャカン屋」と呼ばれれば、にこにこすこ

ぶる機嫌がいい。腕よし、人よし、仕事熱心、三拍子揃ったシャカ
ン君。

だが、このシャカン君が我が家に顔を出して以来、事件が続発し
ているのだ。輪廻転生、前世の出会いに問題があったのか、はたま
た彼の住居の方角が鬼門なのか、私の方が鬼門に当たるのか……多
分どれかに違いない。

「Mさん、予定通り、ジェルの吹付にきました」ヨシダ君（
弟）が、元気よく玄関から叫んでいる。

「ども、ども、んじゃ、よろしくね」

ジェル……要は「粘着剤」。塗って、乾いたらバリッと剥がすつ
てだけの話。目地などの隙間に鎮座している放射性物質が、イヤツ、
イヤツと叫びながら捕縛されてくるのだ。

これが何とアメリカ製……しかも、アメリカの原発じゃ、これを
ふつーに使っているんだって。日本は「安全神話」……。御用学者
たち！ くだらねえこと言ってねえで、早く、安く国産開発しなよ！
家の前の道路では、シャカン君が青い光を怪しく放つ「噴射装置
1号」を降ろしながら「どもー」、ねじり鉢巻きが勇ましい。「男
シャカン君！ 放射能汚染地域を駆け巡る」こんなドキュメンタリ
ー番組ができて、少しもおかしくはない。男臭くて、とにかく絵
になるのだ。

「これで屋根にジェルを噴き付ければ、あしたには剥がせますか
らね」本業の腕に自信のある奴は、何をやっても自信に溢れている
ものだ。

後は二人に任せて、書きかけの小説を書き始めた。自分が読んで
も、くそおもしろくもない、意地だけで書いている長編連載。一応
「作家」を名乗っているが、暇に任せてネットに書いているだけな
のですけど、はい。

庭先で「噴射装置1号」の砲弾装填準備をしていたシャカン君が、
妙に静かだ。やがて、二階から射撃管制官のヨシダ君（弟）が、ド
ドドッと階段を駆け降りてきて、玄関から庭に消えてしまった。

庭を見たら、シャカン君がバケツをかき回しながら、何やら難しい顔をしている。それを横から、ヨシダ君（弟）が心配げな顔で覗き込んでいる。

何か事件が起きたらしい！

新しい小説ネタに困っていた私が、大事件の予兆に気づきながら、それを黙って見過ごす訳にはいかない。

結論を先に書けば、パッキンがいかれて水漏れ、いやジェル漏れしただけの事なんですがね。そのため、2階の屋根で射撃体勢に入っていたヨシダ（弟）君の手元まで、弾が届かなかったのだ。輪っかのパッキングなんて、ホームセンターで100円も出せば、2個は買える代物。

「そーです、はい……だからあ、パッキンが……はああ！ アメリカから輸入！……そんなああ……たかがああ、パッキンですよおお！」携帯で話しているシャカン君の絶叫が、周囲100mには轟いていた。

ジェルそのものがアメリカ製だそうだが、「噴射装置1号」までアメリカ製なのかいな……。科学立国日本……肥え桶を、天秤棒で担いだ方がいいのかな。

そう言えば、深みのあるこの青色に……ワタクシは一目見たときから、何やら心を引かれる怪しげな気配を感じていたのだ。その時はたと思い当った。そうだ！ この色合いは、夜のお姉ちゃんたちのアイシャドー……。太陽の明るい日差しの中で、無理に働かせてはいけないのだ。アメリカなら、きっとそうに違いない。

それから3時間。あーでもない、こーでもない……こうすれば……あれを使えば……寒風吹きすさぶ中、三人は任務にまい進したのでありました。

ホームセンターで買ってきたパッキンも、無駄だった。そうだな……同じMサイズだって、奴らの方が一回りでかいんだ。くそつたれが……。

結局、任務遂行を断念したシャカン・クルーは、肩を落として、

寒い北風に追いついてられるように撒収していった。

だからね……代表のヨシダ（兄）君よ、君よりも僕の方が状況に詳しいわけよ。思い出したいくないんだから、電話でなんか詳しく説明しなくていいから……それでも優しい私は、そつと受話器を置いたのです、はい。

今度「噴射装置2号」がデビューするらしい。きっと、深みのある赤。世界に君臨するアメリカなら、日中用のセクシーギャルを送り込んでくるに違いない。

シャカン君の最初の事件登場は、華やかだった。そして被害者は、「剥がしや君」と私だった。一見真面目そうな「剥がしや君」。こんなタイプに、実はスケベが多いのだ。スケベの私が言うのだから間違いない……と思う。彼は、実は大変雅やかなお名前の持ち主なのですが、忘れてしまいました。ごめんね。

では、次回で。

2 剥がしや君の受難

剥がしや君の受難は、1話の1週間ほど前に遡ります。

除染作戦は好調な滑り出しで、成果も上々。経費もさしてかからず、原始本能も呼びさまされる、根気と体力勝負の世界。これが結構楽しいのだ。1m位の穴を掘って、掻き取った汚染土を袋ごと突っ込む。上から綺麗な底土を30cmもかけてやれば、線量ゼロ。やった！ 気持ちがいい。

きちんとした努力には、きちんと答えてくれる。輪廻転生があるならば、次は理科系にしよう。科学っちゃ素直なもの……人文系と比べれば、田舎の娘と都会の女の差よりも大きいな。今は、田舎も都会もあまり変わらんけど……。まあ、どっちにしても好きだけど……。

ところがどっこい、手りゅう弾やら曲射砲、迫撃砲攻撃には困っちゃった。屋根から放射線がガンガン降ってくる。

自力で奮闘努力するのが、パルチザン。高圧洗浄機とまではいかないが、6千円……7千円だったかな、車洗いのホースリールを買ってきた。貧乏なパルチザンには、高級ミサイルや無人攻撃機みたいな高額商品は似合わないのだ。RPG7とかAK47とか、経費削減が相場と決まっている。

セシウムが水に溶けやすいなら放水開始……これに限る。ところが、飛び散るワ、飛び散るワ……。放射能汚染水が、隣の家を通り越して、遙か彼方まで霧になって流れていく。

直ちに作戦変更、「作戦八、彼我ノ戦力ヲ勘案シツツ、地形及ビ天候等ヲ考慮ニ入レテ、アアシテ、コウシテ、イキアタリバツタリナドセズニ、テキトーニオコナフベシ……」

デッキブラシでお掃除作戦ですな。おしつ、市から線量計を借りてきて……なんと、線量が下がらない！ 水に溶けるはずのセシウムさんが……全員きちんと踏ん張っていなさる。結局、周りのお

宅に綺麗なお水を撒いてあげただけでした。

セシウムの比重が水の2倍で、28度くらいで溶け出すなんて、その時は知らなかったんよ。セシウムは夏の太陽で溶かされて、軽量瓦の細かい穴に、深く静かに潜航してありましたです、はい。

ホームセクターから強力洗剤を買ってきた。範囲を決めて、デッキブラシでガツシ、ガツシ……念のためタワシでガシガシ……線量は……そんな、アホなあああ！ 東北訛りの関西弁が吠える。気持ち程度にしか、下がらんなんて……。RPG7とAK47の敗北……。

そこに颯爽と登場したのが、アース社のヨシダ君（兄）だった。

「おお、それならわが社のジェルにおまかせを。このジェルは……アメリカの……あたら……こうたら……水に溶けるんで……ジェルから分離すれば……その機械が一億円で……ああして……こうして……」ヨシダ君、まだ若いのだが、お言葉に力がこもっている。てなことで、独力で頑張っていたパルチザンが、隣国に援助を求めたみたいになってしまったのだ。無償援助でないところが、つらい……。

「ただですねえ、ジャルは輸入品しかないので……高いんです」
とかなんとか、途中経過は長いのでカット。

なぜかしら、我が家がテレビ取材をされることになった。よくある、実演販売みたいなものかね。あれは大概怪しいんだけどねえ。

取材当日、アース社から来たのは、ヨシダ君（弟）とシャカン君だった。

あれやこれやあって……テレビの取材は長いので、疲れる。カット、カット、カット……なんて当たり前のことだから、こちらはテキトーにお付き合い。

しかし、我がシャカン君は違っていた。な、な、なんと、シャカン君は今日の主役だったのだ！ しかしシャカン君の顔や姿形は不要物で、シャカン君のこて塗りの手だけが主役だったのだ。可哀そう……。

青いジェル——アメリカ人は、どうして青が好きなんだろう——を、シャツ、シャツと塗り広げていく手先が素晴らしい。

翌日、某有名朝番組で、シャカン君の手が大活躍してくれた。めでたし、めでたし。

しかし素晴らしい職人芸は、時として悲劇を生みだす。悲劇の主人公は「剥がしや君」と私だった。

ピンポン……。

次の日、「剥がしや君」が、一人でどここやってきた。

「きのう塗ったジェルを剥がしにきましたあ」

「テレビにでたねえ」

「はい、ありがとうございます」剥がしや君の笑顔が、誇りと自信に満ち溢れている。

剥がしや君が屋根に上がったまま、一時間たっても降りてこない。テレビ取材なので、1 m × 2 m 程度の広さしか塗ってないのに……。もしや「お武家様、にわかには差し込みが……お助けを！」なんてことはないだろうが、あまりにも静かすぎる。

二階に行つて見ると、屋根に屈みこんだ剥がしや君が、カッター片手になにやら力チャ力チャやっている。

「どうしたの？」

「いや……あの……剥がれなくて……」

まだ1割も剥がしていない。

「べりべりつて剥がれるんじゃないの？」

「はあ……普通はそうなんですけど……」

「普通じゃないの？ 軽量瓦は、やはり難しいんだねえ」

「いや……そういうわけでは……」

剥がしや君の態度がおかしいのだ。男の気を引く女じゃあるまいし……。と思いつつも、私も一緒になつて剥がし始めた。ヨシダ君、バイト料くれ！ コンビニのバイト料、確か……。

やってみると、確かに剥がれない。剥がれても、鼻くそ程度……剥がしや君が、屋根から降りてこないはずだ。

この苦勞が、私のネット工法なる大発見に繋がるのだが、それは後日。特許とつたらマージン5%な、ヨシダ君……いや、5.5%にしよ。若い子をはべらせて……がははっ、おっさんの妄想は、限りなく膨らむものだよ、ヨシダ君。

「だからさ、剥がれない原因は何なのさ！」

「実は……これ、一度塗りなんです」

「一度塗りって……もしかしたら、二度塗りするの？」

「はい……一度では強度が足りなくて……こうなるんです」

「シャカン君、一度しか塗らなかったの？」

「はい……」

「なんで？」

「たぶん……テレビで、舞い上がってしまったんですね……」

剥がしや君がメガネをずり上げながら、寂しそうに笑っている。

そうか……華々しくテレビデビューしたシャカン君、一度だけ塗って、とつとと帰ってしまったのだ。そして今、人知れず寒風にさらされながら……剥がれないジェルを何時間も……涙なくしては語れない物語。天よ泣け、大地よ叫べ……。

「こんなの放つといて、もう帰ろ、ねっ」

肩を落とした剥がしや君が、とぼとぼと夕闇に消えていった。これなら絵になるが、剥がしや君は、車ですっ飛んで帰っていった。剥がしや君の外見から推察するに、シャカン君をとっ捕まえて、ぐじぐじと文句を言ったに違いない。お前だけ、テレビでいい格好しやがって……俺は、俺は……涙。

違ったら、ごめんね。

後日、放っておいたジェルがふやけちまって、あっという間に剥がれちゃいました。そんな中でも、線量は半分に下がっていました。テレビ取材も終わったし、本格的にジェルで除染を……そしたらアメリカの夜の女神、青いアイシャドーの「噴射器1号」が、遠い

異国の地でパンクしたのでした。きっと、日本の水が合わなかったんだろうな……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9845x/>

放射能除染日記

2011年10月31日16時19分発行